

研究基盤総合センター 副センター長（工作部門担当） 文字 秀明

工作部門は、昭和55年(1980年)に工作センターとして本格的に稼働し、ちょうど40年が経とうとしています。この間、長年にわたり筑波大学の研究室で必要とされる実験装置などの製作を担い、また、同時に学生の教育も行ってきました。建物自体は変わりませんので、外から見ると変化はありませんが、内部で働く教員や職員は入れ替わっています。

残念なことです。工作部門教員の堀三計准教授が今年度限りでご退職されます。堀先生は工作機械の専門家で、工作部門全体の運営を担当いただくと共に、大学院や学類での機械工作や製図の講義をご担当いただきました。長らく工作部門を支えていただいたことを感謝いたします。

一方、うれしい変化としては、堀先生が導入を計画されていたターニングセンタが今年度、設置されました。ターニングセンタは、種々の工具をプログラムに従って交換しながら、円筒形状や円筒と矩形の組合せ、曲面形状などの複雑形状を加工できる工作機械です。この工作機械の導入により、さらに工作部門の加工技術が向上すると共に、製品完成までの期間短縮が期待されます。

外から見ると分かりづらいのですが工作部門内部では変化が起こっており、教職員は世代交代を行いつつも、技術の伝承と知識の蓄積を行い、より良いサービスを提供することを心掛けております。これからも多くの方々に工作部門をご利用いただけることを願っています。